

02-02-04 — 乳児湿疹(乳児脂漏性湿疹など) —

お腹の中では、お母さんにしっかり保護されていた赤ちゃんにとって、生まれてからの環境は、食事(=母乳など)を自分で取らなければいけないばかりでなく、空気は乾燥して寒い(=羊水の中では常に湿度100%、36℃以上に保たれていた)等等、生きて行くには非常に厳しい世界です。

しかし、赤ちゃんは、これらの環境の変化に適応するために10か月間十分準備をして生まれてきます。**保湿クリーム(=胎脂)**／新生児の皮膚を覆うロウ様あるいはチーズ様の白色の物質)を塗って生まれて来るのも、その準備の一つです。胎脂の脂分は、**赤ちゃんの肌を乾燥からしっかり守ってくれます。**

また、沐浴や清拭などで脂分が落ちてしまった後も、お母さんのお腹の中でもらっていたホルモンの影響が残っているため、しばらくの間(生後1~2か月)は**脂分の分泌が多く**、“しっとり”した皮膚を保っています。ところが、**頭や額・鼻周囲**ではその**脂分の分泌が特に多い**ため、石鹸やシャンプーできれいにしておかないと**乳児湿疹**(特に、乳児脂漏性皮膚炎／黄色い脂っぽいフケのようなものが付着する)の原因になることもあります。ただし、二度洗いをして脂分を落としすぎると乾燥しやすくなるため、**一度洗いで十分です。**

一方、赤ちゃんの肌は大人と比べて薄いため、頭などの湿疹の表面に付着したかさぶたやフケのようなカスを無理に剥がすと皮膚にダメージを与えることがあります。このような場合は、**入浴前に刺激の少ないベビーオイルやオリーブオイルなどに浸したコットンなどで叩くようにして湿(しめ)らせ、十分にふやかしてから、湯船で石鹸やシャンプーを使い、丁寧に洗い落とすと皮膚を傷つけずにもとのきれいな肌に戻ります。**

また、程度によっては、**一気に取ろうとせずに、何日かかけて徐々に拭き取ることも考えて下さい。**

